

岩屋緑地に親しむ会 会報

令和5(2023)年1月1日発行 第88号

編集・発行

岩屋緑地に親しむ会

広報・連絡委員会

市が主催して講座開設

「緑のコーディネーター育成支援講座」

豊橋のみどりを盛り上げる活動をしてみませんか？ などと市民に呼びかけ、豊橋市公園緑地課が主催する「緑のコーディネーター育成支援講座」が3回にわたって開催された。



その初回は令和4年10月20日(木)午後6時30分から。場所は豊橋市役所東館12階の会議室。対象は緑に関する活動

に興味のある方で、応募した18名が参加した。司会は公園緑地課計画グループの神谷和宏主査、挨拶は夏目泰裕専門員で始まった。はじめは「交流タイム」。

参加者が9名2組に分かれ、1対1で向かい合って座り3分間自己紹介などの会話。順に交代しておよそ30分間の交流を図った。次は緑化活動の紹介。発表したのは「岩屋緑地に親しむ会」「とよはしきこり隊」「◎◎」・・・



で各々がどのような活動をしているか資料や映像などを使ったりして紹介した。



2回目は令和4年11月9日(水)に行われた。参加したのは13名。今回のテーマは「樹木の診断と管理」について。講師は(公財)豊橋みどりの協会で「樹木医」の河邊誠氏。はじめは「樹木の診断」

について。その目的と方法の説明があり、樹木の3大リスクの菌、虫、土壌についてその対策も含め事例をあげて説明された。後半は「樹木の管理」。剪定の方法を実際に切る際にどの位置で切るのが良いか、時期はいつかという具体例を挙げて紹介された。

3回目は令和4年11月24日(木)。参加したのは17名。はじめのテーマは「里山管理と作業の安全確保」



で東三河農林水産事務所林務課石田・山田両課長補佐が担当され、愛知県(東三河)の里山の現状について紹介。続いてチェーンソー作業の講習会の案内などを紹介された。二つ目のテーマは前回の続き「樹木の診断と管理」で講師は樹木医の河邊氏。地域の植生は気候や地形や地質、地史が大きく影響する



ことを説明。樹木をどう活かすかについては生態系の攪乱(同じ主でも生育環境によって違う特徴を持っている)や国内種・

外来種の問題があり、外来種についてもすべてが悪いわけではなく、拡大しなければうまく利用できると、その内容の説明や事例紹介をされた。

講習には西川会長はじめ会員数名が参加し、参加した人からは「市内のみどり関連団体が参加し、問題点を話しあい交流の場が広がった、多くの知識を出し合える場で良かった」との感想が聞かれた。【写真左上：支援講座のチラシ、写真左中：第1回講座の交流タイム、写真左下：第1回講座の活動紹介、写真右上：第2回講座の樹木医による樹木の診断と管理、写真右下：第3回講座県担当者による里山管理と安全確保について】